1. 評 価 報 告 概 要 表

評価確定日　平成20年6月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1571300241
法人名	社会福祉法人　つばめ福祉会
事業所名	グループホーム白ふじ
所在地	新潟県燕市秋葉町4丁目5番地19 （電　話）　０２５６－６２－３１５５

評価機関名	社団法人　新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号　新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成　20　年　3　月　13　日

【情報提供票より】（　19　年　10　月　1 日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成　15　年　12　月　1　日		
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9　人	常勤　7人、非常勤　2人、常勤換算　8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り 2階　建ての　1　階 ～　2　階　部分

(3) 利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	20,000／16,000　円	その他の経費（月額）	15,000　円
敷金	□ 有（　円）	■ 無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	□ 有（　円） ■ 無	有りの場合 償却の有無	□ 有 □ 無
食材料費	朝食　―　円	昼食　―　円	
	夕食　―　円	おやつ　―　円	
	または1日あたり　850（おやつ代50円含む）円		

(4) 利用者の概要　（　19 年　10 月現在）

利用者人数	9　名	男性　1　名	女性　8　名
要介護1	4　名	要介護2	0　名
要介護3	3　名	要介護4	1　名
要介護5	1　名	要支援2	0　名
年齢	平均　86　歳	最低　76　歳	最高　92　歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新潟県立吉田病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは近隣に中学校や保育園のある静かな住宅街の中にある。元は企業の社員寮だった建物であるが、内部は利用者の身体状況にあわせスロープや手すりをとりつけるなど、暮らしやすく改善されている。また、居間や廊下には装飾や花などであたたかみを出す工夫がされ、居心地のよい空間作りがなされている。
母体法人は多数の施設を運営し、地域の福祉に貢献している社会福祉法人である。ホーム近くにも同法人のデイサービス施設があり、デイサービスの行事へ参加したり、馴染みの利用者との交流を支援するなど、連携を取っている。また、法人本部にはボランティアコーディネーターがおり、詩吟、フラダンス、お化粧等のボランティアをホームに紹介してもらい、利用者の楽しみごとづくりにをしている。
ホーム向かいには中学校があり、ホームの畑を中学生に開放したり、中学校の行事に参加するなど交流している。運営推進会議には自治会長や中学校校長の参加があり、市職員もアドバイザーとして参加し、地域とのつながりの発展のために共に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 外部評価後に話し合いをし、評価を活かし改善に取り組んでいる。「運営理念」では、 職員全員で事業所独自の理念を作り利用者の思いや健康を大切にしながら日々関わっている。作り上げて間もないため、明示や広報への取り組みはこれからである。「チームケアのための会議」については、月1回職員会議を開き、意見交換を行っている。「献立作り・調理への参画」では、法人の管理栄養士が利用者の希望も取り入れながら献立を作成している。月1回は利用者と相談しながらホームで作成している。利用者が育てた野菜を使った料理をメニューに加えるなど柔軟に対応し、参画場面を増やしている。「入浴の支援」では、個々の希望に合わせ、毎日入浴できるよう支援している。現在の希望は午後が主だが、就寝前の入浴の希望が出てきたため検討し、取り組む予定である。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員一人一人で自己評価を行った後、全員の意見を踏まえまとめている。管理者、職員共に自分たちの関わりの振り返りの機会としてとらえ、自己評価での気づきを利用者のサービスに活かしていく姿勢で取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議では、外部評価の結果や日頃のホームの様子を伝えている。市の職員が参加しており、地域とのつながりについて相談にのってもらっている。自治会長や地域の中学校の校長の参加もあり、下水清掃といった地域の情報や学校行事の情報を得て利用者とともに参加するなど、会議を利用者の生活や地域交流に活かしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 重要事項説明書に苦情受付窓口が記載され、家族に伝えられている。また、面会時に家族の意見や思いを伝えてもらえるよう働きかけている。運営推進会議や交流会でも家族の意見を聞く機会を設けている。今のところ苦情となるものは寄せられていないが、家族と共にホームを作り上げていく観点からも、今後も働きかけを継続するとともに、アンケートなど家族の意見をさらに引き出す方法を検討することが期待される。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域住民の世代の変化により地域行事が減り、、地域とのつながりに苦慮しているが、運営推進会議に自治会長や地元の中学校の校長に参加してもらい、地域の情報を得て地域清掃や学校行事へ参加し、また中学校の生徒にホームの畑を開放するなど交流の機会を作っている。運営推進会議はもとより日頃から市の職員と相談し、地域との連携に向けともに取り組んでいる。今後も、広報などホームを知ってもらうためのアプローチやさらなる交流の機会づくりを検討し、より地域に根ざしたホームとなるよう一層の取り組みが期待される。

2. 評 価 報 告 書

（ ▭ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人で作った理念を基に、職員全員で話し合い、ホーム独自の理念を作り上げた。理念の内容は利用者、家族にもわかりやすく、さらにホーム向かいの中学校の生徒にも理解してもらえる内容であることを意識し作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者、職員で共有している。日々の関わりでは理念が意識されているが、食事の場面や利用者の希望に沿った入浴支援等の具体的な場面で、「その人の気持ちを大切に」や「みんな楽しく」といった理念の実現にいたっていないところがある。	○	職員全員で作り上げたことにより理念がしっかり意識されているので、目指すホームに近づけるよう今後一つ一つの関わりを理念に照らし合わせ、実践につなげていくことを期待したい。
2－2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	運営推進会議で自治会長や家族の代表に理念を伝えている。また、家族交流会の場で理念について説明する予定である。地域に向け、広報誌による伝達も検討したが、利用者のプライバシーの問題などから実現には至っていない。	○	プライバシーに配慮しながらグループホームの理念や様子を伝えられる広報誌づくりに、さらなる工夫を期待したい。広報誌以外の方法も合わせて検討し、より一層の地域への理念の浸透、理解につなげていくことが期待される。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長からの連絡や回覧板から町内の情報を得て、下水掃除や地域清掃に職員が参加している。ホーム向かいに中学校があり、中学校の行事に参加したり、ホームの畑を中学校の生徒に開放している。また、ホームで中学校の鍵を預かり、休日の部活動の際に顧問の先生に渡すといった役割を担っている。	○	地域住民の世代の変化により地域行事が減り、交流の機会が得にくい状況ではあるが、情報収集を行い地域との関わりづくりに努力している。今後はホームの行事やボランティア来訪時に地域の方を招くなど、利用者の生活に配慮しつつ、ホームからの発信、働きかけの方法を検討し、さらに交流を深めていってほしい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、それをもとにホーム全体の振り返りとまとめを行っている。外部評価後も話し合いをし、評価を活かし改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市では運営推進会議は3ヶ月に1回の開催となっており、ホームでもそれに則って会議を行っている。理念やホームの様子、外部評価についての報告等を行うと共に、自治会長や中学校校長から情報を提供してもらい、地域活動や学校行事への参加など利用者の楽しみごとづくりに活かしている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員がアドバイザーとなり、運営推進会議以外にも日頃から地域との関わりについて相談にのってもらっており、地域に密着したホームを目指し共に取り組む関係づくりができている。		
6－2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	母体法人で、新人、中堅等経験や役職に応じた研修が行われており、全職員が高齢者虐待関連法について学べるようになっている。また、利用者の自宅やホーム内で虐待がないよう、自分たちの関わりも振り返りながら防止に努めている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の受診のために家族が来訪する際に合わせ、利用者の日頃の様子や金銭管理について書面で家族に報告している。また、面会時や必要に応じ随時電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関や重要事項説明書に苦情受付先が明示されている。運営推進会議や家族交流会、また、日頃の会話の中で、意見や要望を聞けるよう働きかけている。	○	家族との交流会や運営推進会議での働きかけのほか、アンケートの実施などさらに意見を引き出す方法を検討し、家族との意見交換がより活発になり、より良いホーム作りにつながっていくよう期待したい。
8－2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や半期に1度の人事考課の面接の際に、職員から意見の聞き取りを行っている。改善すべき問題があればその都度アンケートで職員全員に意見を聴取し、検討している。ホームの運営やサービスの改善に職員の意見を具体的に反映させ、取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に複数の事業所があるため、職員の異動は行われるが、異動してくる職員は事前にホームでの研修を行い、早めに利用者と顔を合わせ、時間をかけ徐々に馴染みの関係を作ってから交替できるよう配慮している。		
9－2	18－2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	業務マニュアル、感染症、事故急変時対応、不審者対応等、各種マニュアルが整備されている。随時見直しをし、ホームにあったマニュアルに改善している。職員それぞれがマニュアルを持っており、内容を周知している。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5．人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に研修専門部署があり、年間を通じて研修が計画・実施されている。新人、中堅等経験に応じた研修がある。ホーム内では初任者研修があり、先輩職員が新任職員に1対1で業務指導を行っている。外部研修の情報は職員に伝えられ、希望があれば勤務調整できる範囲で可能な限り受講できるよう支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に6箇所あるグループホームで連携を図り、毎月職員交換研修を行っている。また、2ヶ月に1回程度情報交換会を行い、管理者同士が相談や情報交換を行なう場としている。今後は主任職の参加も検討している。		
11－2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人本部に職員から相談を受ける部署があり、職員は電話等で相談できる。また、法人として産業カウンセラーに業務委託しており、職員の悩みによってはカウンセラーに相談できる仕組みがある。職員間ではお互いに相談し合ったり、利用者と共に外に出て気分転換を図るなどストレスを軽減する工夫をしている。		
		Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのでなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験利用や見学の機会を設けている。利用者が円滑にホームの生活に馴染めるよう、事前に在宅における担当ケアマネージャーから個別の対応方法や留意点等の情報を得ている。入居準備を家族も共にしてもらったり、利用者が慣れるまでの間は家族の訪れる機会を多く設けてもらえるよう働きかけている。		
		2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が一方的に判断するのでなく、まず利用者に尋ねることや共に話し合うことを大切にしている。行事等も「春だからお花見」というように職員が決めるのでなく、利用者はどうしたいのか共に考えている。また、日々の生活の中で調理の仕方や畑仕事などを利用者から教えてもらい、支えあう関係作りに取り組んでいる。		
13－2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	交流会や運営推進会議に家族に参加してもらい、より良いホーム作りに共に取り組んでいる。通院は基本的には家族にお願いし、利用者との関わりの機会としてもらっている。また、法人の行事にも誘いかけ、利用者と一緒に参加してもらうことで共に楽しい時間を過ごしてもらっている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
		1. 一人ひとりの把握			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族からの聞き取りにより、思いや希望の把握に努めている。意向の把握の難しい利用者に対しては、聞き取り以外に日頃の様子などから本人の思いを汲み取るよう努力している。		
14－2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に家族から情報提供同意書を書いてもらうとともに、担当ケアマネージャーから情報を得ている。その後も、利用者本人や家族から聞き取り、生活歴の把握を行っている。		
		2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	「仕事をしたい」「不安を聞いてほしい」など、本人の意見や家族の希望を介護計画に取り入れている。利用者ごとの担当職員と計画作成担当者が話し合い、介護計画を作成している。介護計画についてのカンファレンスは特に設けておらず、利用者への対応や課題について日々の申し送りの中で話し合っている。	○	職員それぞれが意見を出し合うことや意思統一を図ることは、利用者とのよりよい関わりにつながると思われる。介護計画について利用者、家族はもとより、職員全員で共に話し合える時間を工夫し設けてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化等に伴い、本人や家族の意見も踏まえ、ミーティングで現状に即した介護サービスの提供方法を検討している。しかし、介護計画としては、見直しの記録がない。	○	定期的に、また必要時に介護サービスの提供方法を変更した際には、介護計画の再作成が必要であることから、取り組みを行なってほしい。
		3. 多機能性を活かした柔軟な対応			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて職員が受診や理美容の付き添い支援を行っている。また、利用者が法人内他施設へ、個人的に交流を持ちに出かけたり、タオルたたみ等の仕事を手伝いに行ったりと、法人全体で利用者の希望に応じた生活の支援を行っている。		
		4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からのかかりつけ医への受診を継続している。受診は基本的には家族が付き添うが、必要に応じ職員が付き添うこともある。受診時には受診連絡報告書を作成し、ホームと家族、医師とで情報の共有を行っている。また、協力病院・系列施設の嘱託医とも連携を取り、利用者の健康を支援できる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケアの体制が整っていない所で無理をせず、その人にあった場所でケアをする」という法人の方針があり、ホームでのターミナルケアは考えておらず、本人や家族等には、契約時に説明し了承を得ている。ホームでの生活が困難な状態になった場合は、家族の同意のもと、系列施設を紹介しているが、ホームでの生活の継続を希望する場合は個別に検討することとしており、希望や状況に応じて話し合う体制がある。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の前で他の利用者の情報について話さないよう職員間で注意している。また、記録の記入は利用者の生活スペース以外か、生活スペースであっても利用者のそばでは記入しないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課というものは特に設けず、その日の過ごし方や外出など、利用者の思いや希望、ペースに沿って過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の管理栄養士が献立をたてる際に利用者の希望を取り入れたり、月1回献立の決めない日を作って職員が利用者と一緒に考えるなど、利用者が献立作りに参画できるよう工夫している。また、ホームの畑で採れた野菜を使ったメニューを加えるなど、柔軟に対応している。調理や後片付けは利用者と職員が共に行っている。食事も一緒に食べ、さりげない介助や会話で楽しい食事場面づくりをしている。		
22－2	56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活のリズムや排泄のパターンに合わせてトイレでの排泄を支援し、オムツや尿取りパットの使用を減らしたり、使用しないケアに取り組んでいる。しかし、排泄チェック表を利用者の健康管理等に十分活かしているとは言えず、便秘対策なども十分ではない。	○	排泄チェック表を、つけることで終わらず、排泄リズムの把握や健康状態の把握などより円滑な排泄支援につなげてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう日課や勤務を調整し、利用者の希望に添えるよう体制を整えている。現在は希望により、午後3時から夕食前までの時間に主に入浴を行っている。「就寝前に入りたい」という希望がでてきたので、対応する予定である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や畑仕事、洗濯物たたみ、掃除などの利用者それぞれに役割がある。また、今までの趣味や楽しみごとが継続できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など日常的な外出のほか、行事として花見、ドライブ、他の地域のお祭りへの参加など外出の機会が設けられている。また、中学校の文化祭や運動会を見に行ったり、法人の他施設に出かけ、体操に参加したり交流したりと楽しんでいる。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		(4) 安心と安全を支える支援			
25－2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について研修で学んでおり、身体拘束を行わないケアを実践している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠している。一人で外へ出かける利用者は特にいないが、職員の見守りで安全を確保している。		
26－2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルが整備され、事故や行方不明等の防止に取り組んでいる。また、ヒヤリハットや事故報告で事故の原因や対応策について検討し、再発防止につなげている。利用者の状況を把握し、見守り役の職員をはっきりさせることで日頃から事故防止に努めている。建物の構造上の理由から、夜間帯の安全確保のため廊下にカメラを設置し、稼動に向けて準備中である。	○	1，2階に居室があり、夜勤者の待機室からは死角となる部分が多いことなどホーム構造上の課題が大きく、安全のため、カメラの利用に踏み切った経緯がある。ホームとしては、利用者への精神的な影響等に十分注意しながら取り組む姿勢である。今後も代替手段について検討を重ねてほしい。
26－3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	新人研修の際に救急法について学んでおり、職員は応急手当を行えるよう準備している。AEDも用意されており、職員は研修を受け、使い方を把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回、昼間・夜間を想定して避難訓練を行っている。法人内での連携を図り、災害時には法人他施設の職員の応援が得られる体制がある。	○	災害時に、速やかに利用者が避難できるためには、地域の方の協力を得ることが重要である。今後、自治会にも働きかけ、災害時の対応についても地域との連携に取り組むことを期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。風邪などの場合は水分を多く取ってもらうなど、利用者の体調に合わせて配慮している。食事の進まない方にはさりげなく声かけしたり、介助しながら摂取できるよう一人ひとりに応じて支援している。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは企業の社員寮を改築したものだが、廊下や浴室等必要箇所にスロープや手すりを設置し、利用者が安心・安全に暮らせるよう配慮している。また、共用スペースのいたる所に季節の装飾や花などをあしらい、あたたかい雰囲気作りをしている。居間は和室と食堂からなり、利用者は、コタツやテーブルで思い思いに過ごしている。食堂からは縁側に出ることができ、利用者の気分転換の場所となっている。外の洗濯干し場にも椅子を用意し、利用者が作業の合間に休憩できるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に働きかけて利用者の馴染みのものを持ち込んでもらい、その人らしく安心して過ごせる居室作りに取り組んでいる。1つの居室には、フローリングの床と畳の両方のスペースが備わっており、一人ひとりに応じてそれぞれのスペースを活用している。		